

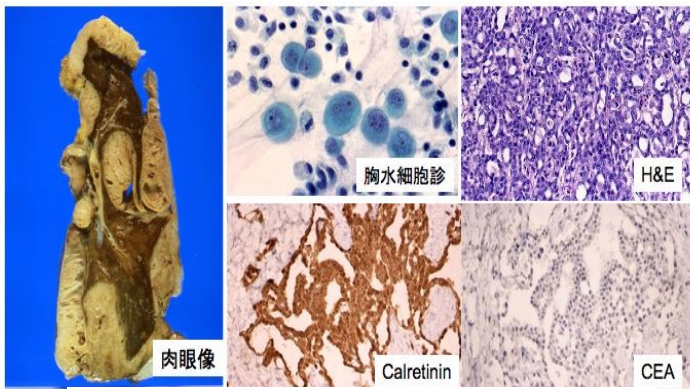
広島大学大学院医系科学研究科 病理学研究室

病理学とは、“疾患の本態を解明する学問”であり、その基盤として形態学を用います。すなわち、疾病をまず細胞・組織の形態学的変化として把握、その変化の推移を観察して、疾病の発生・進展の経過を認識します。さらにその変化を来す要因を、分子・遺伝子レベルで追究することによって疾患の本態を明らかにしていきます。**私たちは対象疾患として特に悪性中皮腫の研究を進めています。**

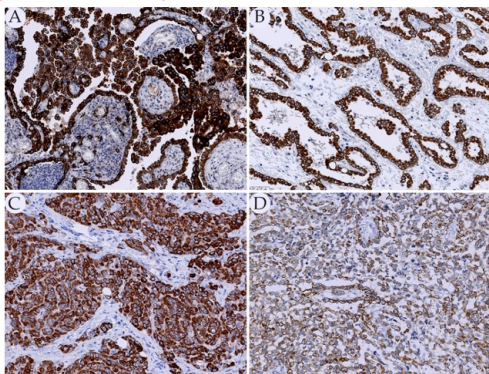
主な研究テーマ

- 中皮腫の鑑別診断に有用な新規マーカーの探索
(DAB-1, Intelectin-1, Glypican-1, SOX6, MUC4, MUC21など)
- 中皮腫の発生、進展に関わるmicroRNAの探索
- アスベスト肺癌の特徴的な遺伝子異常の解析
- バーチャルスライドを用いた病理診断精度向上のためのシステム構築
- 中皮腫の診断精度向上のためのカンファレンスの開催

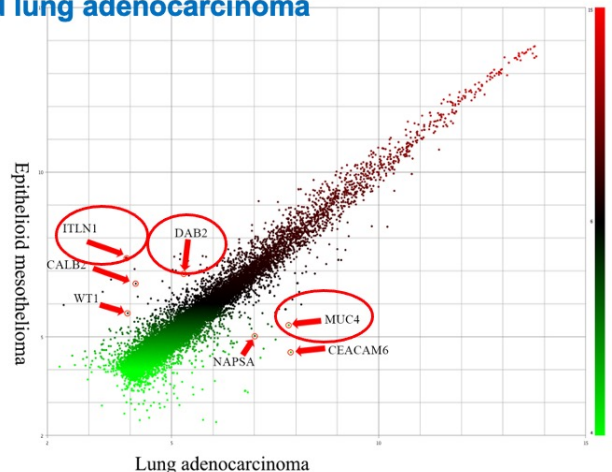
中皮腫の形態診断



Glypican-1 in Epithelioid Mesotheliomas



Result : Scatter plot diagram of mean gene expression between epithelioid mesothelioma and lung adenocarcinoma



Recently published papers

Mod Pathol. 2016, 30:672-81
Am J Surg Pathol. 2017, 41:1045-52
Histopathology. 2017, 70:375-84
Mod Pathol. 2018, 31:809-15
Histopathology. 2019, 74:545-54
Am J Surg Pathol. 2020, 44:1259-65

「病理学」に関心のある方は気軽に研究室に遊びに来て下さい。またメールによるお問い合わせも歓迎いたします。



教授 武島幸男

ykotake@hiroshima-u.ac.jp

電話082-257-5150, or -5152

<http://pathology.hiroshima-u.ac.jp/>